



確認

動労千葉支援・三里塚連帯

全関西の闘う職場・工場から

1.14人民大集会に総結集しよう！

職場討議資料編集委員会



動労千葉支援 三里塚連帯





I 動労千葉と三里塚反対同盟の血盟
＝労農連帯の破壊を許すな！ 2

戦局的、階級的労働運動の防衛と発展のために

II 査問委設置の経過と問題点 3

III 三里塚・ジェット闘争に
支援・連帯する 6

- 国鉄労働者
- 教育労働者
- 全通労働者
- 武谷三男

IV 12・10集会に参加して 7

V 全関西の闘う職場、工場から
1・14人民大集会に
総結集しよう 9

1・14人民大集会への呼びかけ

I 動労千葉と三里塚 反対同盟の血盟 を許すな！

戦闘的、階級的労働運動
の防衛と発展のために

9・17三里塚決起を口実
とした動労千葉への査問
委員会設置 統制処分
を弾劾する！

動労本部中央（革マル）松崎と一部
悪質民同は、動力車労組第一〇一回
定期中央委員会（11月15日～17日）に
おいて、三里塚反対同盟との固い連帯
の下、ジェット燃料貨車輸送阻止闘争
を不屈に担いぬく動労千葉地本に対し、
まさにその故をもって統制処分 査問
委設置を強行した。

動労千葉が「9・17三里塚現地集會
に参加した」こと、十三年間、国家権
力の農民殺しと侵略のための三里塚軍
事空港建設に対して不屈にたたかう三
里塚農民と連帯し、共に三里塚闘争を
戦闘的、革命的にたたかいてきた
ことを唯一の理由に統制処分をかける
というのである。

査問委設置は、三里塚闘
争への全面敵対だ！

この定期中央委員会で決定された内
容は、

①動労千葉の9・17三里塚集會への
参加等を「統制違反」として処分す

るために、地本三役ならびに地本青
年部三役を対象として査問委員会を
設置する。

②千葉地本の全組員を対象とした
「オルグ」を実施する。

③今後「この種案件が発生した場合
には、直ちに当該各級機関の執行権
停止を行う」とともに統制処分に付
する。

④「統制処分に反対する署名」など
は「動労と関係なく」「外部よりの
支配介入」であるので「各級機関共
に断固たる態度を堅持し」「関わり
を拒否」「一切の連けいを断ちきる
こと」とするものである。

この内容に明らかのように、動労千
葉が反対同盟農民と連帯し、三里塚闘
争をたたかったことを理由に「統制違
反」として処分するというものであり、
同時に、この査問委設置それ自体が動
労千葉の三里塚連帯を即禁圧するもの
であり、三里塚連帯を放棄せぬ限り執
行権停止、組織破壊を強行するという
三里塚闘争そのものへの真向からの敵
対であり、三里塚に連帯し、これを支
援する全国のすべてのたたかう労働者



人民への許すべからざる反階級的挑戦
であるといわねばならない。

われわれは、三里塚闘争と動労千葉のジェット闘争の階級的正義性にかけて、怒りをもってこの査問委設置を弾劾するものである。

労農連帯の炎を断やすな!

ロシア革命以来、世界と日本の人民の心のなかにうけつがれてきた、労農同盟の夢とロマンを現実の大地にしっかりと根づかせるためにいま全階級の一人ひとりの勇気あるたたかいが求められている。

77年12月、動労千葉一四〇〇労働者は、労農連帯の大義を貫徹し、首をかけた、組織の存亡をかけた歴史的な百日闘争に決起した。国家権力、国鉄当局の弾圧をはねのけ、ジェット燃料貨車輸送阻止、軍事空港粉砕の強力順法闘争は、総武線をはじめ首都圏国電を無ダイヤ状況に叩き込み、政府・支配階級を震撼せしめ、三里塚空港開港策動に痛打を与えた。

われわれは、十二年間にわたり不撓不屈に闘う三里塚・芝山農民との連帯の絆をさらにうち固め、国鉄利用者、沿線住民の生命と生活を守るためにも、動労千葉結成以来二十六

年の歴史をかけ、文字通り不退転の決意をもって、今ここに、長期強靱な闘いに敢然として突入することを宣言する。

(77年12月2日、ジェット闘争突入宣言抜すい)

12月3日、午前一時を期して開始されたたたかいは、闘争突入宣言にふさわしく壮大なたたかいとなって爆発した。三里塚連帯「ジェット阻止」のローガン列車が首都圏を席捲し、各駅頭では反対同盟農民と支援の労働者・市民が激励する。それは、かつて朝鮮戦争下、北陸鉄道労組が内灘の農漁民と連帯し、米軍の弾薬輸送列車を阻止したたたかい以来、断えて久しい「労農連帯の旗」をかかげ、日本労働運動の階級的再生をかけた歴史的決起にふさわしい鉄路のたたかいであった。

国鉄当局・動労本部の弾圧と妨害はねのけ、備蓄ゼロ〇〇空港廃港へむけたたたかいの前進

動労千葉一四〇〇労働者の、労農連帯をかけ、また労働組合の階級的責務に燃えたたたかいの大爆発に、動労本

部の革マル松崎と悪質反動分子は恐怖し、早くも闘いからの召還を策し、この決戦の最中「労働運動の冬の時代にこれ以上闘うのは極左冒険主義であり政治闘争には限界がある」といなし78・3・1ストをもって「ジェット闘争終止符論」を打ち出し、折からの国鉄当局のスキヤッフ導入・スト破り攻撃に抗してたたかう動労千葉のジェット闘争庄殺の尖兵の役割を担ったのである。また、3・26以降、政府支配階級の「話し合い路線」にロウ落された総評・民同の腐敗と屈服の下、これを打ち砕き、あくまで労農連帯・ジェット貫徹をかかげ、5月開港攻撃に対して一週間の指名ストを本部に要求した千葉地本を庄殺するなど、組合内部からジェット闘争への妨害、敵対を強めてきたのである。

こうした反動的逆流に抗し、5・20強行「開港」当日、空港廃港にむけた「備蓄ゼロ」のローガンをかかげた動労千葉三〇〇の部列の登場は、三里塚第一公園を埋めつくす巨万の労働者・学人民の感動を呼びおこすとともに、新たなたたかいの開始を宣言するもの



II 査問委設置の経過と問題点

◎7月3日～7日

動労第34回定期全国大会開催される。「三里塚反対同盟」線画するなる。三里塚闘争への全面敵対決議を動労内外の反対を暴力的に庄殺して強行採決される。大会に先立ち、三里塚・北富士・砂川新関西空港・日本原等の全国の闘う住民、文化人、知識人三、八〇〇の決議案弾劾声明を発表。出席代議員三百十三名中、百二十四名の共同修正案出される。千葉地本代議員に会場内外で集団テロがなされるなど動労大会始まって以来の異常な大会となる。

であった。

暴力と恫喝による組合民主主義破壊とファッショ的暴挙を許すな!!

78年7月、岡山県津山市で開催された第34回動労全国大会において、革マルと悪質民同は、ジェット闘争の全面圧殺と労農連帯の破壊を動労四万七千組合員の名の下に決議するという暴挙をあえて強行した。

彼らは「三里塚闘争は、権力の政治的謀略にあやつられた極左暴力集団の行動」とたたかう者への権力や日共・民青の言葉かともまごうデマキャンペーンをはり、また、反対同盟戸村委員長の帝国主義権力と実力闘争でもってたたかう農民を代表して、労働者への限りなき連帯と決起を訴えた発言を歪曲し「戸村は列車を爆破せよ、燃料輸送をする動労の運転手を殺せ!と発言している」とデマをねつ造し、そのことをもって「反対同盟と一線を画す」決議を、動労内外の多くの反対をファッショ的議事運営とテロで圧殺、強行採決したのだ。

このファッショ的暴挙は、

「歴史的第三四回定期大会は、これまでにもなかった野次と怒号、更には、代議員の発言権をも封ずるという意図的な議長、議運による大会運営、そして更には発言者に対する、傍聴者などによる個人追求、果ては暴力行為などがおこなわれ、民主主義を誇る労働組合の大会運営のあり方について、正に異常といわざるを得ません」(秋田地本の質問状)

をはじめとする5地本から同趣旨の質問状が提起されており、その組合民主主義をも無視したファッショ的暴挙に動労内外から多くの糾弾がなされている。

反動をつき破り、動労千葉9・17三里塚現地に英雄的に決起!

不滅の労農連帯うち固める

動労千葉一四〇〇労働者は、こうした内外の反動をはねのけ、反対同盟との連帯強化、ジェット闘争の更なる前進を断固として決定し、9・17三里塚現地に決起した。

巨万の労・農・学・人民のなりやま

ぬ拍手の中、鉄輪旗を先頭に入場した動労千葉四〇〇の隊列は、労農連帯の熱き合流を実現した。

職場で当局・資本や民同の処分と統制攻撃を打ち破り、全国から三里塚に結集した全通、自治労、教労や民間の労働者は、動労千葉にわがたたかいを労働者の未来を見出した。三里塚闘争と動労千葉のたたかいの中に、社共をのりこえてたたかう全労働者・人民の未来を。

当日、関川委員長は「も早や多くを語らない、断乎たたかう」と簡潔な決意を表明したが、そこには以下のような決意がこめられていたのである。

われわれは三里塚・芝山連合空港反対同盟の十三年間にわたる不撓不屈、非妥協の闘いに学び、百日間の激闘を頂点とする三里塚・ジェット闘争の断乎たる貫徹によって、労働運動の戦闘的再生を目指して闘い抜いてきた。「四つの視点」を高々と掲げた三里塚・ジェット闘争は、右傾化する既成指導部のもとで苦闘を強いられていた多くの戦闘的労働者に限りない励ましを与え、さらに労

7月12日

動労千葉地本組織第37号で「第34回大会における千葉地本選出代議員・傍聴者に対する集団暴力事件について」本部に申し入れ行う。

7・8月、動労秋田地本、水戸地本、米子地本、仙谷地本、鹿兒島地本から、それぞれ、34回大会運営に関する中央本部への弾劾決議がある。



8月17日

動労全国組織、交渉部長会議が開催され、千葉地本機関紙「動輪第47号」について組織問題とされる。

8月21日

電話連絡第58号にて「動輪」とともに、津田沼支部情報「でんしゃ第54号」も回収と発行停止にされる。

8月16日

千葉地本青年部第19回定期委員会が開催。三里塚・ジェット闘争の新たな決意固める。

8月28日〜30日

千葉地本第31回定期大会開催される。大会宣言(本文中引用)決議

働運動に失望していた多くの地域住民の闘いに限らない希望を与えるものであった。であるが故に、三里塚ジェット闘争に対する広範で重層的な支援・連帯の強力な結集もかちとられたのである。この広範な職場・生産点からの盛り上がりによって支えられた三里塚・ジェット闘争が、

政府・支配者階級の支配の根幹に肉迫する闘いであるがゆえに、熾烈な弾圧と密集する反動の出現もまた必然であった。この弾圧と反動をのりこえることなしに労働運動の未来を切り拓くことは不可能である。

われわれは、一、四〇〇名組合員の団結をさらに強固にうち固め、三里塚・ジェット闘争という歴史の歯車を動かす把手をこの手に握りしめた立場をはっきりと自覚し、労働組合の階級の責務にかけて、きっぱりと正義の道を選択し、自分自身の職場、生産点を守り切ると同時に、福田自民党内閣打倒、三里塚空港廃港にむけて、三里塚・芝山農民をはじめとする戦闘的労働者、人民と連帯し断乎として闘い抜く決意を明らかにするものである。(第三一回千葉地本大会宣言(抜粋))

にするものである。(第三一回千葉地本大会宣言(抜粋))

動労千葉先頭に、一切の反動を粉碎し、日本労働運動の階級的革命的再生かちとろう!

事態は鮮明である。動労千葉への統制処分を黙視し、三里塚闘争とジェット闘争を破壊するのか、それとも動労千葉を支援・防衛するのか。動労と日本労働運動のファシスト的変質を許すのか。それとも屈服と腐敗を深める社共・民同をのりこえ、たたかう労働運動の革命的再生をかちとるのか。不正義か正義か。問題はかくたてられているのだ。

われわれは動労の反革命的ひきまわりし、ファシヨ的乗っ取りを許してはならない。革マルと悪質民同による三里塚闘争への反革命的敵対・正義の労働連帯破壊の攻撃を絶対に許してはならない。

今日、日本の労働運動がますます右傾化する中で、三里塚闘争は社共・民同をのりこえてたたかう全人民の共闘と団結の砦としてより一層強化されねばならない。とりわけ、この間の帝国主義者の「有事立法」をはじめとする体制的危機突破をかけた侵略戦争策動の急展開をみると、なお一層鮮明である。



政府・支配階級の三里塚開港攻撃は、帝国主義の侵略にむけての軍事体制強化、農民切り捨て『労働者人民の搾取と収奪の強化・強権的弾圧を軸とする挙国・致的総動員体制構築にむけた攻撃の今日的環であり、これと真向から対決し、『侵略粉碎・帝国主義打倒』にむけた革命的労働同盟の萌芽『反対同盟農民と動労千葉を両軸とする労働連帯を守りぬく』ことは労働者・人民の階級の責務である。

われわれは、侵略に担当し、その尖兵と化する産業報告会への道を、あらゆる反動と反革命的敵対を勇氣をもってはねのけ、動労千葉を先頭に帝国主

●9月17日

三里塚現地に一万八千の大結集、動労千葉四千人感動的合流かちとる。

●9月18日

動労全国戦術委員長会議において9・17への千葉の参加について問題とされる。

●9月28日～29日

動労臨時全国青年部長会議において「千葉問題」を「敵対予盾」ときめつけ、本部に処分を要請する決議を強行。

●11月15日～17日

動労第1期中央委員会において、千葉地本への査問委員会設置を強行

●11月

定中を前後して、戸村委員長を先頭とする三里塚反対同盟は、査問委設置を弾劾して三日連日動労本部に抗議行動に決起。

●12月10日

東京日比谷公会堂において、羽仁五郎氏、戸村・作氏をはじめとする「動労千葉支援・三里塚連帯国民集会」が開催される。五、六千人の大結集かちとる。



義の凶暴な侵略と対決する日本労働運動の階級的・革命的再生をかちとらねばならない。

全関西の闘う職場、工場から一・一四 三里塚連帯・
動労千葉支援ノ人民大集会に総結集しようノ！

全関西の労働者諸君！とりわけ、職場で当局・資本と民同支配下で階級的労働運動をめざし日夜苦闘をしいられている青年労働者諸君！

ロシア革命以来、世界と日本の人民の心のなかにうけつがれてきた労農同盟の夢とロマンを現実の大地に根づかせるため、一切の反動と敵対をはねのけ、職をかけ、組織をかけてたたかう動労千葉こそわれわれ青年労働者の希望の星だ。

社共・民同がたたかう者への敵対と裏切りを深めるいま、これをのりこえて進む動労千葉一、四〇〇労働者を孤立させてはならない。それは、職場こそ違え、われわれ一人一人が、職場で地域で日々直面している情況そのものではないか。！

羽仁五郎氏、戸村一作氏をはじめと

する「一・一四 動労千葉支援・三里塚連帯人民集会」に総力結集しようではないか！

一・一四集会を突破口に、三里塚闘争勝利、動労千葉支援、そしてわが関西の地にガッチリと根づいた社共・民同をのりこえてたたかう戦闘的・階級的労働運動の巨大な潮流を削り出すことを訴える。



III 三里塚・ジェット 闘争に支援・連帯 する

動労千葉は、国鉄労働者の最大の誇り

動労千葉の闘いを知ったとき、自分が国鉄労働者であることの誇りとその力を心底から自覚することができた。自分の働く鉄路は、三里塚の農民への連帯、日本社会の変革の武器になりうるのだ。その力をもっているのだ。その闘い故に統制処分をするとは、鉄労以下ではないか。千葉の仲間とともにこの反動を打砕く。

(国鉄労働者)



闘う教育労働者は動労千葉の闘いに学び彼らに続く

「教え子を職場へ送るな」を含む業に關いぬいてきた教育労働者は、今、試練にたゞされている。

有事立法、元号法制化の攻撃が吹き荒れ、「日の丸」「教育勅語」が叫ばれている。侵略粉砕が真に問われているのだ。

三里塚農民と動労千葉の13年の労農連帯・軍事空港粉砕・ジェット闘争こそは侵略粉砕の闘いそのものだ。

わが教育労働者は、三里塚・動労千葉のように闘いぬかねばならない。これに続け！統制処分などもつてのほかだ！

(教育労働者)

正義は動労千葉にある！

三里塚農民と連帯し、ジェット燃料貨車輸送阻止闘争を闘う動労千葉地本に対して、アジア人民殺りくのための基地・横田へジェット燃料を運ぶ動労東京地本のある支部が、統制処分を要求！

どちらに正義があるか明々白々だ！わが全通労働者は、国労・動労の仲間と共に反マル生闘争を闘いぬき勝利した。その動労の最前頭で闘う千葉地本の仲間が統制処分をかけるということば、わが全通労働者への弾圧と同じ事だ！マル生粉砕、物タメ闘争の渦中で、統制処分粉砕！われわれも共に闘う！

(全通労働者)



「動労千葉のジェット燃料輸送阻止闘争に全面的な支援を送る」

労働組合は労働者の人権をまもるために存在するものであることは、いうまでもありません。自らの人権をまもるには、他の人々の人権をまもることも連帯しなければ遂行できないものです。労働者・農民・市民の人権をまもる連帯の闘いが常に唱えられるのはそのためです。

これを忘れ労働組合が組合員の目先の利益だけを追求するとき、それは人権でなく自らの特権を追求する集団に転化し、他の人権の犠牲の上に乘る存在となるものです。

この意味で動労千葉地本のジェット闘争こそ、まさに労組本来の姿をあらわすものとして、私は全面的支援を送るものです……

武谷三男(物理学者・安全問題研究者)

VI 12・10集会に参加して

労働総体の右傾化、体制内化が語られはじめて久しい。ここ数年來、曲りなりにも職場組合活動をやってきたものにとって、あるときは腹だたく、あるときは、無責任な常用語にすらなっているその言葉を聞くとき、自分の力では抗いがたい流れを感じて、いらだってきた。

今日、機会をえて、動労千葉支援・三里塚連帯を掲げた集会に参加したのも、言葉の横行よりも、現実の動労千葉の実践に触れてみたかったからである。

期待以上の得るものがあった。

何よりも、社会党や総評などのいまままで私が参加してきた集会と異って、日比谷公会堂を埋めつくした人々への集会への集中には、本心に好感が持てた。三里塚と動労千葉の労働連帯を守り抜く、という一点に全ての人が集中・力を傾注していることがありありとうかがえた。

連帯の挨拶、各界からのアピールにしてもいわゆる儀礼用のもので、演壇におさまりかえっているのではなく、それぞれの人々が、北は、北海道

の長沼から南は沖縄のCTS闘争まで、
個々の闘いに責任をもちながら、その
天王山として三里塚連帯、動労千葉支
援を訴えていた。北富士、日本原、佐
世保むつ：これら全ての闘う人々が心
底から、動労千葉の労働者の闘い、開
始された労農連帯を日本人民にとって
至宝として守り発展させようとしてい
ることが、心から感得できた。

労働者とはなにか？労働運動とは現
実の日本人民の闘いをこゝまで励まし、
貢献することができるのか！社共・総
評の既成の運動感覚をもつものにとっ
て、それは驚きであり、すばらしい感
動であった。労働運動とは、全ての人
民の希望を担って支配者階級と対決出
来るものでなくてはならず、そのこと
を動労千葉は、実践をもって示してい
るのだ。

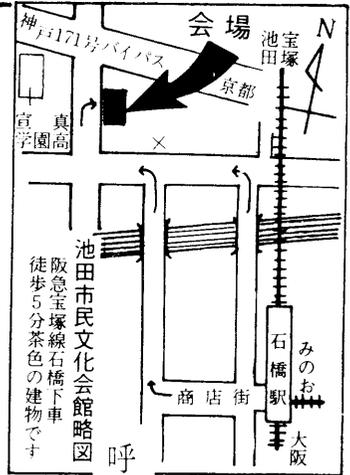
反対同盟の人々の発言によれば、動
労千葉支援のため、動労一〇一定期中
央委員会にかけたけた三十名の反対同
盟農民に対して「一部動労内革マルは、
『ドン百姓帰れ』『ドン百姓に労働運動
がわかってたまるか』と暴言をもって
対応したという。



なんということであろう。開始された労働連帯、労働運動の新たな再生、闘う人民の労働者への期待をこんなかたちでおしつぶすとは。統制処分査問委設置を強行するということは、私たちが否定し、改革すべき労働運動の誤まれる方向そのものである。

この日の集会での全金本山、全通共闘、出版労働者連帯会議などの発言は、動労千葉とその精神を同じくする潮流の存在をはっきり示した。動労千葉が、労働運動の戦闘の再生のために必要なことを果敢にやり抜くこと、あらゆる妨害、迫害を避けてとうらさず、真正面から対決して、そのことによって逆に強くなっていくこと。この闘いの精神こそ、いまの総評にはない、われわれが本当に学びとらねばならないことだ。

動労千葉を支え、守り抜き、動労千葉を先頭とする労働運動の新たな潮流をつくり出すために奮闘しなくてはならない。いまの労働運動の危機は、日も早くそのことを求めていると思う。



V 全関西の闘う職場、工場から 1・14人民大集会 に総結集しよう

☆集会名称 1・14 動労千葉支援・三里塚連帯人民大集会

☆と き 1月14日(日) 午後1時

☆と ころ 池田市民文化会館大ホール

(阪急宝塚線「石橋」下車すぐ)

呼びかけ

羽仁五郎 (歴史学者)

戸村一作 (三里塚芝山連合空港反対同盟委員長)

石橋政次 (右 同 副委員長)

北原鉞治 (右 同 事務局長)

浅田光輝 (動労ジェット闘争支援共闘会議世話人)

桑原重夫 (11・22 在日韓国人留学生青年不当逮捕者を救済する会事務局長、牧師)

西村関一 (元アムネスティ・インターナショナル日

村田 拓 (文化活動家) 本支部理事長)

永井 満 (淡路国際空港淡路町反対期成同盟代表、

加辺永吉 (関西新国際空港建設反対明石住民の会代

松尾 博 (滋賀大学教授) 表、牧師)

山本善偉 (新関西国際空港建設反対東灘区住民の会

中島昭八 (姫路いのちを守る会世話人、牧師) 代表)

(12月4日現在)

(12月4日現在)

1. 14 人民大集会への呼びかけ

動労千葉への統制処分策動を糾弾する

11月16日、国鉄動力車労働組合第一〇一回中央委員会は、千葉地本三役・地本青年部三役に対する統制処分のための査問委設置を強行しました。

この決定は、千葉地本が「労農連帯」の旗印も鮮明に、三里塚闘争勝利・ジェット燃料貨車輸送阻止をかかげ、9月17日三里塚現地闘争を闘ったことをもってなされたものであります。三里塚農民に連帯して闘ったが故の組織統制処分、この理不尽極まる策動が、あろうことか労働組合の手によって行なわれようとしているのです。

周知のとおり、動労千葉地本は、二年前の動労中央委決定、昨年の全国大会決定に基づき、三役を先頭に文字通り地本組織の総力をあげて、ジェット燃料輸送阻止闘争を貫き、危機に頻する三里塚空港の命脈を断つ闘いを実現してまいりました。動労千葉のこうした闘いに、全国の心ある人民はどれほど勇気づけられたことか。人民の求めてやまぬ労農連帯が生き生きと築かれ、敵権力を一層絶望的な地点に追いつめていたのであります。

ところが、本年7月、第34回全国大会において、動労中央本部は、三里塚闘争を、権力と「極左暴力集団」の政治的謀略である等と、不可解極まる断定を行ない、「反対同盟と一線を画する」なるおそるべき反動的な方針案を提出し、大会参加の約半数近くの代議員の反対意見を暴力的に封じ込んで採択いたしました。

今回の千葉地本への査問委設置という事態を見るならば、この「一線を画する」という大会方針が、千葉地本の三里塚連帯・ジェット燃料輸送阻止の闘いを圧殺するためにのみ提出されたものであることは明白であります。

三里塚闘争は現地反対同盟の十三年間の英雄的闘いを先頭に、全国の労働者人民の力と英知を集めて闘われ、今日、全人民全階層の反権力闘争の天王山ともいうべき偉大な地平を築き上げております。そして昨年来のジェット燃料貨車輸送阻止闘争こそは、日本における労農同盟の本格的実現として、全国の労働運動 農民・住民運動の圧倒的期待と注目を集めているものであります。

今回の中央委における査問委設置は、動労中央自らがこの輝ける労農同盟を破壊しようとする暴挙であります。私達は、三里塚闘争の勝利と日本労働運動の戦闘的發展を心から願うものとして、今回の千葉地本に対する査問決定の撤回を強く求めるものであります。

以上の趣旨にたつて、全人民の力で千葉地本とジェット闘争を守り抜くために、人民大集会を開催したいと思えます。各界、各層から大挙して結集されることを切に訴えます。

1・14

動労千葉支援・三里塚連帯

人民大集会



<よびかけ>

羽仁五郎
戸村一作
石橋政次
北原鉦治
浅田光輝

鷺田正平
小西ノブ子
田坂晓人
小西武夫

土方鉄夫
桑原重博
松尾関一
西村田拓

永井満吉
加辺永善
山本善偉
中島昭八

<賛同者>

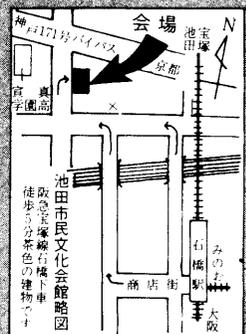
日高六郎
阪根俊夫
金城実

春本幸子
青木敬介
加瀬都貴子

ほか (12月10日現在)

1月14日(日)午後1時

池田市民文化会館





ただかう動労千葉をまもれ!

三里塚闘争は現地反対同盟の13年間の英雄的闘いを先頭に、全国の労働者人民の力と英知を集めて闘われ、今日、全人民全階層の反権力闘争の天王山ともいふべき偉大な地平を築き上げております。そして昨年来のジェット燃料貨車輸送阻止闘争こそは、日本における労農同盟の本格的実現として、全国の労働運動、農民・住民運動の圧倒的期待と注目を集めているものであります。

今回の中央委における査問委設置は、動労中央自らがこの輝ける労農同盟を破壊しようとする暴挙であります。

私達は、三里塚闘争の勝利と日本労働運動の戦闘的発展を心から願うものとして、今回の千葉地本に対する査問決定の撤回を強く求めるものであります。

(「1.14人民大集会への呼びかけ」より抜粋)

1. 14 人民大集会要項

◆主催者あいさつ

戸村一作(三里塚芝山連合空港反対同盟委員長)
 桑原重夫(11・22在日韓国人留学生青年不当逮捕者を救援する会事務局長)

◆経過報告

浅田光輝(動労ジェット闘争支援共闘会議世話人)

◆基調報告

永井 満(淡路国際空港淡路町反対期成同盟代表)

◆発

菅

羽仁五郎(歴史学者)〔予定〕

小西武夫(反むつ条例制定佐世保市民の会代表)

石橋政次(三里塚芝山連合空港反対同盟委員長)

北原鉦治(右 同 事務局長)

鷲田正平(日本行政訴訟原告団)

小西ノブ子(反戦被爆者の会会長)

松尾 博(滋賀大学教授)

阪根俊夫(元能勢ナイキ基地設置反対住民連絡会議事務局長)

金城 実(彫刻家)

加辺永吉(関西国際空港建設反対明石住民の会代表)

山本善偉(新関西国際空港建設反対東灘区住民の会代表)

中島昭八(姫路いのちを守る会世話人)

春本幸子(兵庫県スモンの会会長)

青木敬介(播磨灘を守る会世話人)

加瀬都貴子(神戸市民救援会議)

ほか

◆全国鉄反戦

◆支援団体・支援労組